

# FIM の書棚 から



石井龍彦氏  
株式会社くろがね工作所  
取締役研究本部長

第7回

快適なワークプレスを構築するには、どのような環境を実現すればいいのでしょうか？ファシリティマネジャーが頭を悩ます問題を解決するには、オフィスを構成する家具などの知識も欠かせません。「人が中心となる職場をつくるのがファシリティマネジメント(FM)の役目」と主張し、FM推進連絡協議会の編集委員として『総解説ファシリティマネジメント』の制作にも携わってきた石井龍彦さんが薦めるのは、日本人にとって最適な椅子

## ●プロフィール

1942年生まれ。関西学院大学社会学部卒業。1965年株式会社くろがね工作所入社。営業、企画部門を経て、1989年オフィス創造研究所所長に就任。1999年取締役研究本部長となる。主としてファシリティマネジメントとオフィスプランニング、ファイリングシステムの研究、指導に携わる。FMガイドブック、総解説FM、オフィス環境プランニング総覧をはじめ、多くの共著による書籍に執筆がある。現在、(株)アートシステムズ取締役社長を兼任、京都工芸繊維大学大学院非常勤講師、JFMA、NOPA、JOIFA等の諸協会でも活動中である。

# 日本人には日本人に合った椅子がある。 ファシリティマネジャーの視野を 広げさせてくれる新文化論

床に座ってきた日本人に西洋式の椅子は合わない

私が編纂に参加した『総解説ファシリティマネジメント』の中では、オフィスという言葉はあまり使わず、できるだけ「ワークスペース」という表現をするようにしています。それは、ファシリティマネジャーの役割はオフィスのような箱ものをつくるだけでなく、人が中心になって働ける場を構築することこそが大切だと考えているからです。

そのような視点に立ったとき、椅子の選択は非常に重要だと思ようになりました。しかも、これほど難しいアイテムはない。人類は昔からさまざまな椅子を開発し、現在でも毎年のように各メーカーから新しい製品が発表されているというのに、未だに「これがベストだ」と言い切れる椅子はなかなかないのですから。

そんな思いを抱えていた私が、たまたま、見つけたのがこの本です。著者は大学で体育学を修めるとともに体操選手としても活躍した人物で、1999年ごろから椅子づくりを始めた身体技法の研究者だといえます。その主張は大変面白く、「日本人は西洋とは異なる生活習慣の中で固有の身体的特徴を持つようになったのだから、その条件に合った椅子でなければならない」という論理を展開しています。確かに日本人は、昔から床や畳に、直接、腰を下ろす「床坐」による生活を続け、背もたれがなくても自然に正しい姿勢で座ることができました。したがって、西洋の基準で設計された椅子が必ずしも身体にぴったり合うとは限らないのです。



『椅子と日本人のからだ』の概要

床坐の文化をバックグラウンドに持つ日本人にとって、自然な立居振舞い、姿勢とはどのようなものか？長時間座っても疲れにくい心地よい椅子の坐り方とは？日本人の身体技法の基礎研究や民俗史的分析をふまえ、腰痛や肩こりなど生活習慣病に悩まされがちな現代人に、椅子と快適につきあうための小さな秘訣を伝える、生活文化誌エッセイ。

(発行元のサイトより)

『椅子と日本人のからだ』 1,890円(税込)  
矢田部英正／著 2004年1月発行  
晶文社 ISBNコード：4-7949-6596-6

## 『FMの書棚から』バックナンバーのお知らせ

- 04年4月号  
FMの発祥地である米国の解説書に学ぶ施設の運営管理に必要な「手法」と「知識」  
加藤達夫氏
- 03年9月号  
まずオフィスコストを正確に把握すること初心者でもFM理解できる貴重な解説書「ワークスペース戦略の重要性を経営者にアピールする」  
虎の巻  
小田鹿古氏
- 03年11月号  
グローバルな競争力が発揮できない企業は昔の日本車と同じ「敗因」を抱えている  
中津元次氏
- 03年7月号  
歴史からPMや管理会計の教科書まで多様な本がFMの知識を深くしてくれる  
小林茂良氏
- 03年3月号  
「巨像」企業IBMの情報化戦略は知識社会の到来を予測していた？  
松成和夫氏